

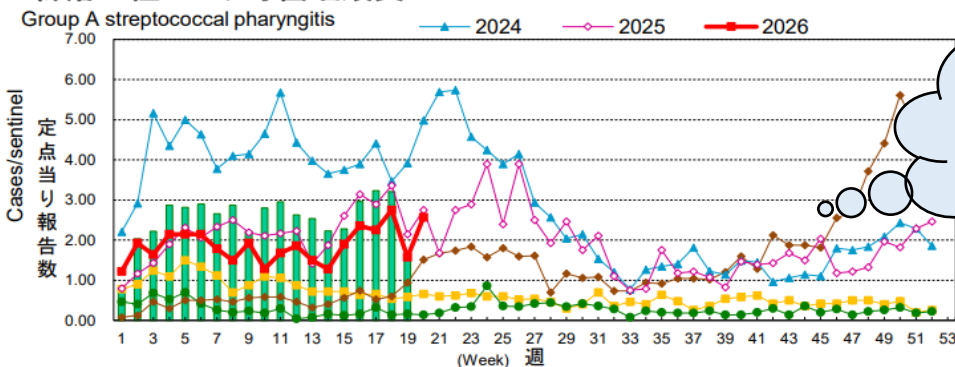
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています！

県北管内では、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。

この感染症は、**発症直後の感染力が強く、集団感染に留意**する必要があります。

今回は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について詳しく紹介します。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



出典：福島県感染症発生動向調査 第20週

例年、春から初夏にかけて流行します。



## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はどんな病気？

### 感染経路

A群溶血性レンサ球菌による感染症で、感染経路は主に飛沫感染、接触感染です。

### 症状

感染から発症までは、およそ2～5日です。  
発熱、咽頭痛、イチゴ舌などの症状がみられます。  
また、全身の赤い発疹などの症状が現れ、  
しょう紅熱へと移行することがあります。

### 治療

治療には抗菌薬を使用します。合併症を防ぐため、  
症状が改善しても、自己判断で薬を途中でやめないでください。

## 予防するには？

A群溶血性レンサ球菌感染症には予防のためのワクチンはありません。  
人混みを避けることや、基本的な感染症予防を心がけましょう。



咳エチケット



マスク着用



手洗い

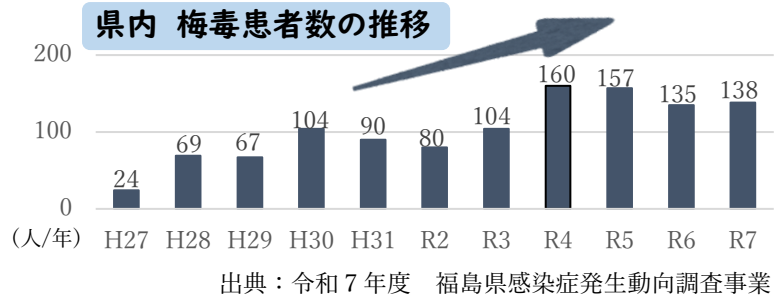


換気

出典：厚生労働省 感染対策のポイント

# 県内の梅毒患者数が増加しています！

近年、県内の梅毒患者数は高止まり傾向です。男性は20～50代、女性は20代、30代で患者数が多くみられます。**早期発見・早期治療で、感染拡大を防ぎましょう。**



## 梅毒はどんな病気？

梅毒トレポネーマという細菌による性感染症で、セックスやキス等の性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。**感染すると、性器や口に小豆から指先くらいのしこりや痛みの少ないただれができ、手のひらや足の裏、体中に痛みやかゆみのない発疹が広がります。**治療をしなくても、症状は軽快しますが、数年から数十年の間に心臓や血管、脳など複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもあります。また、**妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児にも感染し、死産や早産、こどもの神経や骨などに異常をきたすことがあります。**

## 予防するには？

- ・性交時には必ずコンドームを使用しましょう。
- ・※コンドームで完全に予防できるわけではありません。
- ・不特定多数の人との性的接触は避けましょう。



## 早期発見・早期治療

- ・発疹などの症状があらわれたら、必ず医療機関を受診しましょう。
- ・※皮膚科のほか、**男性は泌尿器科、女性は産婦人科**などで診察が受けられます。
- ・梅毒への感染が心配されるような機会があった場合は、医療機関や保健所で検査を受けましょう。**多くの保健所では無料、匿名で検査を受けられます。**
- ・※詳しくは、受診する医療機関や最寄りの保健所にお問い合わせください。
- ・梅毒と診断されたら、**パートナーも必ず一緒に検査を受けましょう。**

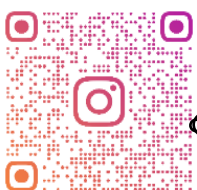
## 6月1日～7日はHIV検査普及週間です！

県北保健所では、HIV検査と同時に梅毒の検査を受けることができます。

HIV感染症や梅毒では、自覚症状がほとんど現れないことがあります。

感染の不安がある方は、検査を受けてみませんか？

検査の日時等、詳しくは「県北保健所感染症【公式】Instagram」をご確認ください。



KENPOKU.KANSEN

Instagramは  
こちらのQRコード  
を読み込んでください。

発行日：令和8年5月25日

発行元：福島県県北保健所医療薬事課

住所 〒960-8012 福島市御山町8-30

電話 024-534-4113